



2020 年度 ルール変更 対照表
ボッチ (SO ボッチャ)

変更前	変更後
変更前の内容	フッターの改訂日も確認し 2020 年 6 月とすること
<p>3. コートおよび用具</p> <p>3.1 コート</p> <p>3.1.3 コートの壁は、側面およびコートのエンド側にあり、硬い材質のものであることが望ましい。エンド側の壁は、少なくとも高さ 30.48cm(12in)とする。側面の壁の高さは、最低でもボッチ(SO ボッチャ)ボールと同じ高さとする。側面およびエンド側の壁は、競技中に壁打ちやリバウンドショットで使用してもよい。コートはすべて、幅 50mm(2in)のラインが以下の通りに明確に記されていること:</p>	<p>3.1.3 コートの壁は、側面およびコートのエンド側にあり、硬い材質のものであることが望ましい。エンド側の壁は、少なくとも高さ 30.48cm 160mm(12in 6.3in)とする。側面の壁は最低でもボッチ(SO ボッチャ)ボールと同じ高さ 少なくとも高さ 80mm(3.15in)とする。側面およびエンド側の壁は、競技中に壁打ちやリバウンドショットで使用してもよい。コートはすべて、幅 50mm(2in)のラインが以下の通りに明確に記されていること:</p>
<p>4. 競技ルール</p> <p>4.1 デビジョン</p> <p>4.1.6 デビジョンの間、パリーナが 9.15m(30ft), 12.20m(40ft), あるいは 15.24m (50ft) ラインにある地点から離れた場合、次のボールが投球される前、また計測が行われる前に元の位置に戻される。</p>	<p>4.1.6 デビジョンの間、パリーナが 9.15m(30ft), 12.20m(40ft), あるいは 15.24m (50ft)ラインにある地点から離れた場合、次のボールが投球される前、また計測が行われる前に元の位置に戻される。投球前にパリーナが置いてあった位置でボールが止まった場合、パリーナを元の位置に戻し、そのボールをパリーナのすぐ後ろにパリーナと触れるように置かなくてはならない。その後、残りのボールも投球し計測を行う。最後までボールがパリーナと触れる位置にあった場合、計測値は 0cm とする。</p>
<p>4.3 3 投ルール</p> <p>4.3.1 パリーナを持つチームは、9.15m(30ft)ラインを越え、反対側にある 3.05m(10ft)ラインの手前にパリーナを着地させるために、3 回まで投げ入れることができる。パリーナがハーフコートライン上または反対側の 3.05 メートル(10ft)ライン上に着地した場合は投球失敗とみなされる。これら 3 回の試投が失敗した場合、相手チームは 1 回のパリーナ投げ入れが認められる。この試投も失敗した場合、審判はコートの 12.20m(40 ft) 地点の中央にパリーナを置く。パリーナを持つチームは最初のボールを投</p>	<p>パリーナを持つチームは、9.15m(30ft)ラインを越え、反対側にある 3.05m(10ft)ラインの手前にパリーナを着地させるために、3 回まで投げ入れることができる。パリーナがハーフコートライン上または反対側の 3.05 メートル(10ft)ライン上に着地した場合は投球失敗とみなされる。パリーナの位置がハーフコートライン上またはハーフコートラインより手前、もしくは反対側にある 3.05m(10ft)ラインを超えた場合は、失敗となる。(注: 同じ選手が全 3 回の投球を行わなくてはならない)これら 3 回の試投が失敗した場合、相手チームは 1 回のパリーナ投げ入れが認められる。この試投も失敗した場合、審判はコートの</p>



<p>げることができるという優位を失うことはない。</p>	<p>12.20m(40 ft) 地点の中央にパリーナを置く。パリーナを持つチームは最初のボールを投げることができるという優位を失うことはない。</p>
<p>4.4 競技の順序</p> <p>4.4.1 コイントスに勝ったチームのメンバーによってパリーナを転がす、もしくは投げ入れることでゲームは開始される。パリーナを投げ入れる選手は、最初のボールを投げなければならない。その後、対戦チームのボールより自チームのボールをパリーナに近づけるまで、または4個のボールを使い切るまで、自分たちのボールを投げ入れる。この“ニアレストボール”ルールの規定により、競技は続行される。パリーナに最も近いボールを持つ方のチームは、“イン”ボール、そして相手チームは、“アウト”ボールとなる。片方のチームが“イン”ボールチームになるたびに、“アウト”ボールチームに投球権が移る。</p>	<p>コイントスで勝ったチームのメンバーによってのみがパリーナを転がす、もしくは投げ入れることで、試合を開始することができる。パリーナを投げ入れた選手が最初のボールを投げなければならない。その後、対戦チームのボールより自チームのボールをパリーナに近づけるまで、または4個のボールを使い切るまで、自分たちのボールを投げ入れる。この“ニアレストボール”ルールの規定により、競技は続行される。パリーナに最も近いボールを持つ方のチームは、“イン”ボール、そして相手チームは、“アウト”ボールとなる。片方のチームが“イン”ボールチームになるたびに、“アウト”ボールチームに投球権が移る。</p>
<p>4.5 最初の基準点</p> <p>4.5.1 最初の基準点を設定するのは常にパリーナを持つチームの義務である。</p> <p>例:チーム A がパリーナをトスし、最初のボールを投げる。チーム B は、チーム A のボールを動かすためにボールをぶつけ、両チームのボールがコート外に飛び出しコート内にはパリーナだけが残る。この場合でも、最初の基準点を再設定するのはチーム A の義務である。</p>	<p>最初の基準点を設定するのは常にパリーナを持つチームの義務である。</p> <p>例:チーム A がパリーナをトス投げ入れ、最初のボールを投球する。チーム B は、チーム A のボールを動かすためにボールをぶつけ、両チームのボールがコート外に飛び出しコート内にはパリーナだけが残る。この場合でも、最初の基準点を再設定するのはチーム A の義務である。</p>
<p>4.6 投球方法</p> <p>4.6.1 投げたボールがコート外に出たり、選手が投球時にファウルラインを踏み越えたりしない限り、チームには投球を続ける権利がある。その際ボールを転がす、投げ入れる、バウンドさせる、ぶつけるなどの手法を使うことができる。また選手は、競技中にボールをヒッティングしてボールを遠ざけることで得点をあげたり、相手チームの得点を減らしたりすることができる。選手は、ボールを上下どちらから握って持ってもよいが必ず下手投げしなければならない。ボールを下手で投げるとは、腰から下でボールを放すことをいう。</p>	<p>投げたボールがコート外に出たり、選手が投球時にファウルラインを踏み越えたりしない限り、チームには、選手はボールを転がす、投げ入れる、バウンドさせる、壁にぶつけるなどの手法を使い投球することができる。また選手は、競技中にボールをヒッティングしてボールを遠ざけることで得点をあげたり、相手チームの得点を減らしたりすることができる。選手は、ボールを上下どちらから握って持ってもよいが必ず下手投げしなければならない。ボールを下手で投げるとは、腰から下でボールを放すことをいう。</p>
<p>4.9 コーチング</p> <p>4.9.1 コーチあるいは観客とアスリートまたはパートナー</p>	<p>一旦、競技会運営者/大会責任者が定めた競技エリアに入ったアスリートやパートナーが、コーチまたは観客と協</p>



<p>ナーが協議することは、一旦アスリートやパートナーが競技会運営者／大会責任者が定めた競技エリアに入った後は、禁じられる。</p>	<p>議することは禁じられる。 但し、競技会運営者が正当と判断する次の2つのケースのみは例外として認められる。 4.9.1.1 コーチはディビジョニング中、1投目および2投目の練習球を投げ終えた選手と話すことができる 4.9.1.2 競技会運営者は、競技中の正式な「コーチによるタイムアウト」の間はコーチに選手と話すことを許可することができる(タイムアウトの時間、手順、規則に関しては競技開始前にコーチに伝達される)</p>
<p>4.10.13 スコアカード 4.10.13.1 試合後にスコアカードにサインをするのは、各チームのキャプテンの責任である。サインは、最終スコアの正当性を示す。スコアやその有効性に疑問のあるキャプテンは、抗議申請を行う試合のスコアカードにサインするべきでない。</p>	<p>試合後にスコアカードにサインをするのは、各チームのキャプテンまたはコーチの責任である。サインは、最終スコアの正当性を示す。スコアやその有効性に疑問のあるキャプテンまたはコーチは、抗議申請を行う試合のスコアカードにサインするべきでない。</p>
<p>5.5 反則 5.5.1 ファウルライン・ファウル 5.5.1.1 ポインティングやヒッティングにおいて、ボールが手を離れ、決められたファウルラインの手前のコート内にボールが着地する前に、選手の足のどの部分も、またアスリートが使用する車椅子、松葉杖、ステッキ等の器具のどの部分もファウルラインを越えてはならない</p>	<p>ポインティングやヒッティングにおいては、ボールが手を離れるまで、パリーナが投げ入れられるまで、およびボールが決められたファウルラインの手前のコート内に着地する前に、選手の足を含む身体のどの部分も、およびアスリートが使用する車椅子、松葉杖、ステッキ、ランプなどの器具のどの部分もファウルラインを越えてはならない。</p>